社会福祉法人容雅会 令和4年度事業報告

令和 4 年度は社会福祉法人容雅会として「笑顔があふれ安心感のある施設へ」を掲げ、「その人らしさを守るということ」という基本理念のもと、利用者様、地域の皆様一人ひとりに寄り添う運営を目指して参りました。

また、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症により様々な計画の変更・中止を余儀なくされた一年でもありましたが、下記の4つの軸のもと、臨機応変にその時点で行える安全安心なサービスの提供に努めました。

① 利用者様、ご家族様に対して

- ・基本的人権の尊重
- ・接遇(笑顔、言葉遣い、声掛け)の徹底
- ・ご家族様への適時適切な説明とコミュニケーションの促進
- 信頼関係の構築、醸成
- ・一人ひとりに寄り添った個別ケアに対する質の向上
- ・アンケート等によるニーズの把握
- ・新型コロナウイルス感染症対策の周知徹底、協力依頼 (面会方法、短期入所・通所の利用に際する条件など)

② 地域の皆様に対して

- ・公益的取り組みの推進
- 広報媒体を活用した情報公開
- ・地域の環境整備活動への参加
- ・地域の皆様との連携(災害時の受け入れ等)
- ・新型コロナウイルス感染症対策の周知徹底

③ 職員に対して

- ・接遇(言葉遣い、声掛け、表情)の徹底
- ・安心安全な働きがいのある職場環境作り
- ・各部署・職種間の情報の共有、連携の徹底
- ・ケアの質の向上や均一化に伴う教育、研修の充実
- ・職員の処遇向上
- ・職員の資質向上、資格取得に向けた支援
- ・リスクマネジメントの徹底 (事故報告、ヒヤリハット報告、感染症、身体拘束、苦情等)
- ・科学的介護情報システム「LIFE」の運用 「LIFE」=Long-term care Information system For Evidence

- ・介護ロボット活用等による業務の効率化、負担の軽減
- ④ 各事業(特養・短期入所・通所・居宅・保育)に対して
 - ・目標の設定と達成
 - ・稼働率の維持向上
 - ・広報活動の強化(利用者、求職者に対して)
 - ・各事業間の情報共有、連携強化
 - ・外国人材の登用についての検討
 - ・業務継続計画 (BCP) の策定
 - ・人材の確保
 - 収入の確保と経費削減
- ① 利用者様、ご家族様に対しては令和4年度も感染対策の観点から、直接対面による面会は行わず、オンライン面会と窓越し面会のみに制限をさせて頂きました。感染拡大の状況により、面会そのものが中止になる時期もありましたが、現在は窓越しにマスクを外して頂き、お互いの表情が読み取れるような対面での対応をしております。加えて、面会時に付き添っている職員が日常生活の様子を伝えるなど、ご家族様の不安の払拭にも努めました。

また、看取り期に関しましては、最期の時間をご家族で過ごしていただくためにも、居室内だけでは ありましたが入室して直接面会対応を行いました。

アンケート等によるニーズの把握に関しては、日々の生活の中でも楽しみの大部分を占める食事について、栄養課で嗜好調査を行いました。改めて聞き取りをすることで今後の食事内容や調理レクリエーションに反映することができる内容となりました。

- ② 地域の皆様に対しては、令和4年度もオレンジカフェ(認知症カフェ)や初任者研修、シルバーリハビリ体操への会場提供ができませんでしたが、令和5年度は十分な感染対策を取りながら、再び開かれた施設となるよう、様々な事業の展開を計画しております。また、施設への立ち入りが制限されているため、ホームページやインスタグラムなどのSNSを積極的に活用することで、外部の方にも施設内の様子や感染対策状況を確認して頂けるようにしました。
- ③ 職員に対しては、令和4年度も職員の新規採用が困難を極めたこと、加えてコロナウイルスの蔓延により職員の休業が相次ぎ、業務負担の増大も深刻な問題となりました。そのため地域の元気な高齢者を介護職員のサポートをする「介護助手」として雇用することで、従来介護職員が行ってきた周辺業務の部分を担い、介護職員が身体介護などに注力できるような仕組みを導入しました。現在は非常勤3名を雇用していますが、今後も介護職員の業務の質の向上のためにも引き続き雇用の検討をして参ります。

また、資質の向上に向けた研修の充実等を掲げておりましたが、施設内研修、初任者研修や喀痰吸引 研修などがコロナ禍で日程の変更や中止が相次ぎ、充実とまでは至りませんでした。しかし、今後は 感染症の動向を見つつ、中村病院との連携を図りながら各研修を再開し、また施設内で開催した研修 を動画として録画したものを活用することで、参加できなかった職員へのフォローや、今後の感染対策が強化された時でも研修を継続できるような準備をしております。

職員の資質向上、資格取得に向けた支援を積極的に継続して行うことで求職者に対するアピール、離職防止に繋げたいと考えております。

④ 各事業については、各事業ともに明確な目標稼働率を設定し、達成に向けての運営を行って参りました。特養は空床や入院者の動きをホワイトボードに記載し視覚に訴えることで、またデイサービスとショートステイはその日の利用者数を書いて毎日提出することで、職員の稼働率に対する意識を高めるようにしました。各事業間で適時適切な情報を共有することで、居宅介護支援事業所、デイサービス、ショートステイ、特養と利用者様のニーズに幅広く対応できる施設としての強みを活かせるようになっており、稼働率の増加にも繋がっております。

SNS の活用に関しても、デイサービスの新規利用者様が自身でホームページを見て施設を選ぶことで利用につながるケースや、求職者が SNS を見て興味を持って訪れるケースが増えているため、更新頻度を上げることで、様々な方の目に止まるよう工夫をして参ります。

また、令和4年度に準備を進めてきた外国人材導入についても、職員へよい影響が出るように、士気を高めつつ入職準備を進めていきたいと考えます。

現在、特養入居者様の中には人工透析の方が2名、経管栄養の方が5名おり、体調管理や病院との連携がこれまで以上に必要となってきました。今後も医療重度者の入居は益々増加すると考えられますので、多職種の連携を深め、個々の様々なニーズに応えられる施設として、医療との連携をより一層の強みとした運営をして参ります。

令和4年度は目標として「笑顔があふれ安心感のある施設へ」を掲げて運営をして参りました。コロナ禍でも、職員一人ひとりがその時にできる最大限のケアやサービスを明るい笑顔と共に提供してくれました。次年度も利用者様、ご家族様に安心して生活していただけるように、また職員も長く安心して笑顔で働ける職場環境を整えて、皆様の「その人らしさ」を守れる施設運営の継続をいたします。

I 法人の運営体制

理事·監事体制

理事長 中村 雅英

理事 鈴木 智

理事 吉田 一巳

理事 小川 一夫

理事 長谷川祐一

理事 中村安佐子(常勤)

監事 山野邊元則

監事 木幡 仁一

評議員体制

評議員 赤津 隆彦

評議員 阿部 健一

評議員 門屋 博史

評議員 菊地 秀明

評議員 鈴木 重光

評議員 村田 裕之

評議員 箱崎 孝成

第三者委員会体制

委員 菊地 秀明

委員 山野邊元則

評議員専任解任委員会体制

委員 中村 秀樹

委員 山野邊元則

委員 木幡 仁一

委員 巽 龍也

委員 佐藤 孝男

業務顧問

労務顧問 あすか社会保険労務士法人 菊地 秀明

Ⅱ 法人の事業

特別養護老人ホームサニーポート小名浜

1 特別養護老人ホーム事業 80床

2 短期入所生活介護事業 20床

3 通所介護事業 3 0 名

4 居宅介護支援事業 90名

5 その他(施設内託児事業・企業主導型保育園受託事業)

Ⅲ 理事会・評議員会の開催

令和4年度における理事会を次のとおり開催致しました。

口	開催日	場所	内 容
第1回	令和4年6月1日	サニーポート	事業活動実績報告、採用報告、令和3年度事業
		小名浜	報告、令和3年度決算報告、令和3年度監事監
			査報告、ハラスメント防止に関する規程につい
			て、定款の変更について、評議員選任解任委員
			会の開催日時について、評議員会の開催日時に
			ついて
第2回	令和4年9月28日	書面による理事	外国人技能実習生受入に係る組合加入について
	(提出日)	会の決議	
第3回	令和4年12月22日	サニーポート	事業活動実績報告、ミャンマーからの技能
		小名浜	実習生受入について、土地賃借料の改定に
			ついて、補正予算について、入居者の不動
			産寄付について
第4回	令和5年3月23日	サニーポート	事業活動実績報告、採用報告、ミャンマー
		小名浜	からの特定技能者の受入について、第2次
			補正予算について、次年度事業計画につい
			て、給与規定の変更について

令和4年度における評議員会を次のとおり開催致しました。

開催日	場所	内 容
令和4年6月23日	サニーポート小名浜	事業活動実績報告、防犯カメラシステムの取り替え
		に関する入札について、採用報告、次期評議員1名
		の選任について、令和3年度事業報告、令和3年度
		決算報告、令和3年度監事監査報告、ハラスメント
		防止に関する規程について、定款の変更について

令和4年度における評議員選任・解任委員会を次のとおり開催致しました。

開催日	場所	内容
令和4年6月14日	サニーポート小名浜	評議員の選任について

令和4年度における懲罰委員会を次のとおり開催致しました。

開催日	場所	内 容
令和4年9月8日	サニーポート小名浜	介護職員の不適切な介助について

IV 役員の研修

令和4年度の役員研修につきましては、9月から11月の間、福島県社会福祉協議会主催のオン ライン研修等が開催されましたがコロナ禍等により参加致しませんでした。

V 職員の推移

職員の退職者数は、開設年度が最も多く、離職率が26.7パーセントで、その後離職率が10 数パーセント台まで低下しておりましたが、令和4年度は、23.6パーセントと、やや上昇しま した。

全体の退職者数は、26名でしたが、入職後、1箇月前後での退職者3名、6箇月前後での退職 者4名と早期退職者が7名と多かった事が離職率の増加原因でした。

職員の退職者により各部署における欠員が生じていることから有料人材紹介の利用が多くなっ ております。求人活動におきましては、ハローワーク小名浜、福島県社会福祉協議会、ふくしま生 活・就職応援センターや福祉系の専門学校、大学に求人票の提出をするとともに、福島県労働局等 主催の就職説明会に参加、更に、いわき市内の各高等学校等の進路指導教諭から求職情報を得て、 採用活動を行っております。令和5年度の新卒採用予定者数につきましては高卒2名、専門学校卒・ 大卒で1名と致しました。年間を通じ、学校訪問の回数を多くして進路指導教諭と面会の上、求職 者情報を得て新卒の採用に鋭意取り組んで行きたいと考えております。

各部署配置人員(全職員名)

管理職	事 務	相談	居宅介護	機能訓練	看 護	保育	栄 養
2	4	2	6	4	13 (4)	8 (5)	2
用務運転等	渚 (短期)	潮(特養)	湊(特養)	旭(特養)	岬(特養)	通所	歯科衛生
1 0 (10)	9 (1)	10 (4)	9 (3)	14 (6)	9 (2)	7 (4)	1

※数字は総人員 () 内数はパート数

各部署離職率

管理職	事 務	相談	居宅介護	機能訓練	看 護	保育	栄養
1 (0.9%)	0	3 (2.7%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	3 (2.7%)	2 (1.8%)	0
用務運転等	渚(短期)	潮(特養)	湊(特養)	旭(特養)	岬(特養)	通所	歯科衛生
1 (0.9%)	3 (2.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	0	6 (5.4%)	1 (0.9%)	0

※ 数字は、離職者数 (%)は、全体に対する離職率 ※1人に対して0.9% (離職率23.6%÷離職者数26人)

全体離職率

令和4年度末職員数 110名 令和4年度離職者数 26名 離職率 23.6%

全体職員の推移

	採用者数	離職者数	年度末在職者数	離職率
平成27年度	5 2	2 7	1 0 1	26.7%
平成28年度	2 9	2 6	1 0 4	25.0%
平成29年度	2 7	2 1	1 1 0	19.0%
平成30年度	1 8	2 0	1 0 8	18.5%
令和元年度	1 7	1 9	106	17.9%
令和2年度	2 1	2 1	106	19.8%
令和3年度	1 9	1 5	1 1 0	13.6%
令和4年度	2 6	2 6	1 1 0	23.6%

VI 各事業別報告

特別養護老人ホームサニーポート小名浜

令和4年度におきましては、空床が発生してから新規の入居者様を受け入れるまでの入退去にかかる期間の短縮による稼働率の向上に重きをおいて運営を行いました。結果として、稼働率は令和3年度96.27%に対して97.40%と1.13%の改善を行うことが出来ました。

入居者様の生活の質の向上に関しては、新型コロナウイルス感染症蔓延下における面会の対応と買い物等による生活の中の楽しみの創出を中心に行いました。面会の対応としてはオンライン面会専用のパソコンによる大きな画面での面会や機械操作の苦手な方に対しては施設内でオンライン面会の実施、啓発を行いました。また、定期的にお買い物イベント(施設内で外部業者の方から洋服や日用品などの商品を預かり販売すること)を行うことで、入居者様自身が品物を選び、購入を楽しみ、社会性の向上を目指しました。感染症対策により施設全体でのレクリエーションが開催できない中、各ユニット単位で出来る芋煮会やクリスマス会等の行事やおやつ作り等の調理レクリエーション、個別に施設外周の散歩等を行うことで、コロナウィルス感染症蔓延下でも出来る限りの気分転換を図りました。

入居者様の平均要介護度は、令和3年度4.14に対して令和4年度は4.20となり、重度化が進みました。それに伴い施設での看取りについても令和4年度には9件が実施されました。施設開設9年目を迎え、入居者様の平均年齢も86.55歳となりました。今後も施設看取りの増加が予想され、更なる看取りケアの内容の充実が望まれます。

今後の課題として、令和4年に引き続き稼働率向上や重度化への対応だけではなく、コロナ禍での 閉ざされた生活から以前のような開かれ、動きのある生活へのスムーズな回帰が求められます。

令和4年度特別養護老人ホーム稼働率推移(%)

_	4月	5月	6月	7月	8月	9月	_	上期平均	
	98. 5	100.9	99. 5	98.8	97.8	96. 4		98. 6	
-	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	-	下期平均	年間平均
	96. 2	93. 9	97.8	96. 5	94. 9	97. 2		96. 1	97. 4

令和4年度特別養護老人ホーム入居者数実績(人)

上期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1	1	1	1	1		
要介護 2	1	1	1	1	1	1
要介護3	16	15	15	15	13	14
要介護4	35	34	33	33	34	34
要介護 5	32	32	32	31	31	31
在籍計	85	83	82	81	79	80
入院:延日数	18	0	38	29	24	47
外泊:延日数	0	0	0	0	0	0

下期	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
要介護1							4
要介護2	1	1	1	1	1	1	12
要介護3	14	14	14	13	13	13	169
要介護4	35	34	37	35	35	37	416
要介護5	31	32	32	32	32	33	381
在籍計	81	81	84	81	81	84	982
入院:延日数	24	89	21	46	15	2	353
外泊:延日数	0	0	0	2	0	1	3

平均/月
0. 33
1. 00
14. 08
34. 66
31. 75
81. 83
29. 41
0. 25

令和5年3月31日現在入居者介護度別状況(人)

性別	男性	女性	合計
要介護1	0	0	0
要介護2	0	1	1
要介護3	3	9	12
要介護4	6	31	37
要介護 5	8	23	31
合計	17	64	81

令和5年3月31日現在入居者介護度別平均年齢状況(歳)

性別	男性	女性	平均
要介護1	_	-	-
要介護2	-	88. 0	88.00
要介護3	85. 7	90. 3	89. 16
要介護4	74. 8	90. 4	87. 89
要介護 5	78. 0	85. 9	83. 90

平均	78. 23	88. 76	86. 55
----	--------	--------	--------

令和5年3月31日現在入居者介護度別市町村状況(人)

±m++ <i>b</i>	いわ	き市	富岡	可町	大負	 長町	合計		
市町村名	男	女	男	女	男	女	男	女	
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	
要介護 2	0	1	0	0	0	0	0	1	
要介護3	3	9	0	0	0	0	3	9	
要介護4	5	31	1	0	0	0	5	31	
要介護 5	8	21	0	1	0	1	9	23	
小計	16	62	1	1	0	1	17	64	
合計	7	78		2			81		

短期入所生活介護事業所サニーポート小名浜

令和4年度におきましては、長引く新型コロナウィルス感染症の影響もあり、令和3年度67.9%に対して60.68%と稼働率が大きく低下しました。

特に令和 4 年 12 月の第 7 波からの利用控えは稼働率に大きな影響を与えました。そのため令和 3 年度に引き続き 地域の虐待や福祉目的でのサービス利用の方を積極的に受け入れました。特に 福祉目的の受け入れについては、これまで数多く受け入れている実績が他地区にも広まり、 小名浜だけではなく 内郷や 勿来など遠方からの受け入れ依頼もあり、広域での対応となりました。

今後の課題としては 第1に 稼働率の回復が挙げられます。コロナウイルス感染症の蔓延による利用控えが続いているため、各居宅介護支援事業所への啓発だけではなく、地域の高齢者へ直接の啓発活動等を検討、実施する必要性があると考えます。 第2にコロナ禍での経験を活かし、利用者様が安全に施設を利用するための感染症対策や緊急時に適切な対応ができるような仕組みの構築が必要であると考えます。

令和4年度短期入所生活介護事業所稼働率推移(%)

_	4月	5月	6月	7月	8月	9月	_	上期平均	
	65. 50	62. 26	68. 00	57. 10	67. 58	65. 67		64. 35	
	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月		下期平均	年間平均
	66. 77	61. 50	57. 74	51. 45	53. 04	51. 45		56. 99	60. 68

令和4年度短期入所生活介護事業所利用者数実績(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
要支援 1										1		1	2
要支援 2		1											1
要介護1	5	7	7	3	6	5	3	4	5	5	5	6	61
要介護 2	8	9	11	11	9	10	10	9	10	7	10	8	112

要介護3	9	10	8	2	6	7	9	6	9	6	5	7	84
要介護4	6	4	3	8	6	9	8	10	8	7	5	5	79
要介護 5	6	6	7	8	8	7	8	9	4	5	3	3	74
合 計	34	37	36	32	35	38	38	38	36	31	28	30	413

令和5年3月31日現在利用者介護度別状況(人)

性別	男性	女性	合計
要支援 1	0	1	1
要支援2	0	1	1
要介護1	2	11	13
要介護2	6	15	21
要介護3	7	10	17
要介護4	4	10	14
要介護 5	1	5	6
合 計	20	53	73

令和5年3月31日現在利用者介護度別平均年齡狀況(歳)

性別	男性	女性	平均
要支援 1	-	89. 0	89. 0
要支援2	_	91.0	91. 0
要介護1	85. 0	87. 9	87. 5
要介護2	82. 0	86. 5	85. 2
要介護3	86. 1	83.0	84. 2
要介護4	81. 5	87. 2	85. 6
要介護 5	73. 0	86. 0	83.8
平均	83. 2	86. 2	85. 4

通所介護事業所サニーポート小名浜

令和 4 年度におきましては、令和 3 年度から引き続きレクリエーションとリハビリ内容の充実を図った結果、令和 3 年度平均稼働率 39.4%に対し 46.11%と 6.71%の増加となりました。

レクリエーションに関しては 令和3年度同様に内容の充実をすべく、各個人の希望に沿った個別レクリエーションと他利用者とのコミュニケーションを目的とした集団レクリエーションについて検討、実施をしました。特に集団レクリエーションでは体を動かすということを目的として各種の体操を関連付けて行いました。リハビリテーションの面では個別性と実生活での動作を意識した生活リハビリテーションにより重きをおいて行っています。

今後の課題はコロナ禍を経験した上で、利用者様が安全安心に毎日通えるための対策の評価を行いながら、他利用者様や社会との交流ができるようなレクリエーションや施設外活動を行う体制作りを

考えています。

令和4年度通所介護事業所稼働率推移(%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期平均	
46. 67	46. 54	48. 33	48. 08	44. 44	45. 77	46. 64	
10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	下期平均	年間平均
49. 10	46. 15	40. 12	43. 97	46. 53	47. 90	45.63	46. 11

令和4年度通所介護事業所利用者数実績

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	実人数	延人数										
要支援1	2	7	2	8	2	6	2	6	2	8	2	8
要支援2	3	14	4	15	4	17	4	19	4	16	4	20
要介護1	11	71	10	69	10	83	10	83	9	85	8	81
要介護2	11	90	10	91	11	93	11	94	10	85	11	88
要介護3	13	134	12	136	11	117	10	112	10	112	10	114
要介護4	5	42	5	40	5	46	5	41	4	37	4	46
要介護5	2	6	1	4	2	15	2	20	2	17	0	0
合 計	47	364	44	363	45	377	44	375	41	360	39	357

	10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計
	実人数	延人数	延人数										
要支援1	2	7	1	5	1	4	1	5	1	4	1	4	72
要支援2	4	18	3	12	3	9	3	9	3	10	3	10	169
要介護1	8	88	11	91	11	92	11	91	11	87	10	93	1014
要介護2	12	97	13	82	12	88	10	80	9	77	12	96	1061
要介護3	10	121	11	117	10	92	10	111	10	103	10	125	1394
要介護4	5	50	4	46	4	37	5	44	5	50	4	56	535
要介護5	1	2	2	7	1	3	1	3	2	4	1	4	85
合 計	42	383	45	360	42	325	41	343	41	335	41	388	4330

令和5年3月31日現在利用者介護度別状況(人)

性別	男性	女性	合計
要支援1	1	0	1
要支援2	1	2	3
要介護1	1	9	10
要介護2	7	8	15

要介護3	3	10	13
要介護4	3	3	6
要介護5	0	2	2
合 計	16	34	50

令和5年3月31日現在利用者介護度別平均年齢状況(歳)

性別	男性	女性	平均
要支援1	63. 0	-	63.0
要支援2	81. 0	86.0	84. 3
要介護1	81.0	86. 7	86. 2
要介護2	81.0	85. 1	83. 2
要介護3	85. 0	87. 2	86. 7
要介護4	76. 3	88.0	82. 1
要介護 5	_	78. 5	78. 5
平均	79.8	86. 1	84. 1

居宅介護支援事業所サニーポート小名浜

令和 4 年度におきましては、令和 3 年度月平均 100.3 人より 3.5 人増加し、月平均 103.8 人の給付管理を行いました。

ケアマネージャー1人当たりの平均受け持ち件数は令和3年度33.9人から0.7人増の34.6人となりました。また毎朝、受け持ち事例について話し合いの時間を持つことで利用者一人ひとりのニーズに多方面から検討できる体制としました。ケアマネージャー1人の受け持ち件数が上限に近くなる中で、1ケース毎にさらにきめ細やかに対応できることを目的としております。

今後の課題は、小名浜地域の高齢者問題に対して、社会福祉法人が設置する居宅介護支援事業所の 役割として、行政や地域包括支援センターには出来ないような地域に密着した相談窓口機能の強化が 必要となります。コロナ禍で開催が延期されていた認知症カフェの開催や、地域の集まり等における 相談窓口の設置など、地域との繋がりについての検討と致します。

(人)

	4月	5 月	6 月	7月	8月	9月
給付管理利用者数	83	82	85	81	77	78
予防給付管理利用者数	20	21	22	23	24	25
合計	103	103	107	104	101	103
契約者数	108	109	109	108	105	108

	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
給付管理利用者数	85	83	83	76	75	74	962
予防給付管理利用者数	26	25	24	24	25	25	284

合計	111	108	107	100	100	99	1246
契約者数	112	113	110	111	108	105	1306

居宅介護支援事業所サニーポート小名浜内郷事業所

令和 4 年度におきましては、令和 3 年度月平均 70.41 人より 28.92 人増の 99.33 人の給付管理を行いました。

ケアマネージャー1 人当たりの平均受け持ち件数は令和 3 年度 17.6 人から 15.51 人増の 33.11 人になっております。

開設 2 年を経過し、地域のどのような高齢者問題に対しても「断らない」「ていねいに」を念頭に 支援を行いました。後発事業所のため内郷地区や従来より依頼の多かった大熊町の利用者様だけでは なく植田地区、四ツ倉・久之浜地区まで広域にケアプランの受け入れ範囲を拡大しました。

今後の課題として、継続して地域の福祉ニーズに対応できるように地域包括支援センターや行政・地域の医療機関等との意見交換会や事例検討会、地域民生員等とのコミュニケーションを図って参ります。

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
給付管理利用者数	77	72	74	79	76	79
予防給付管理利用者数	19	19	19	20	19	17
合計	96	91	93	99	92	96
契約者数	98	96	99	103	98	98

	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
給付管理利用者数	76	80	80	83	84	92	952
予防給付管理利用者数	20	21	23	21	21	21	240
合計	96	101	103	104	105	113	1192
契約者数	97	101	103	104	105	111	1215

公益的な取り組みについて

令和 4 年度におきましても新型コロナウィルス感染症により多くの事業が中止及び延期が余儀なくされました。特に定期開催していた認知症カフェや介護職員初任者研修が開催できない状況でした。 今後の課題としては、延期されていた種々の事業再開に向けて地域や行政との調整が必要であると考えます。

保育事業

令和 3 年 12 月に開設したおおはら保育園における保育事業は、令和 4 年度は通年での事業運営となりました。職員の体制は、保育士 7 名保育補助 1 名看護師 2 名(令和 4 年 3 月 31 日現在)となり、利用園児も令和 4 年 8 月に定員 19 名に対して 18 名となりました。利用園児の増加に伴い、7 時 30

分から勤務の職員を3名体制とすることで早い時間からの利用ニーズに対応しております。

利用園児に対する処遇面では、開設1年目で途中入園児が多く、一人ひとりの月齢や発達に合わせた対応や、生活リズムの確立に対応するため、職員間の連携に注力し、統一した保育ができるように心がけました。また、保護者が安心して預けられる保育園となるため、家庭での様子を詳細に聞き取り、園児のみならず保護者にも寄り添った保育ができるようにしました。

様々な感染症への対応については、看護師と連携を取りながら、園児の健康管理に留意し、園全体で協議しながら取り組みました。

今後の課題としては、安定的な保育の提供の為に職員一人ひとりの資質の向上が求められます。そのため法人内外での研修の充実や他の関連団体との情報交流等を充実させて参ります。